

平成29年度 第1回安来市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成29年8月8日(火) 15時30分から17時

2. 会 場 安来庁舎 202会議室

3. 出席者

(構成員)

安来市長 近藤宏樹

教 育 長 勝部慎哉

教育委員 少林浩道

教育委員 森井優

教育委員 加藤隆志

教育委員 三輪喜美代

(事務局)

総務部長 清水保生

教育部長 奈良井丈治

教育総務課長 吉野文康

学校教育課長 難波真章

総務課長 前田康博

教育総務課総務係長 宇名手由子

総務課専門官 堀内志美栄

(司 会)

総務課長 前田康博

4. 傍聴者 なし

5. 議 題 報告

(1) 先進地視察の報告、意見交換

議題

(1) 子どもの志の育成について

(2) 子どものネットについて

(3) 子どもの虐待について

(4) その他

6. 内 容

○前田総務課長

ただ今から、平成29年度第1回総合教育会議を開催いたします。皆様には、お忙しい中、本会議にご出席いただきまして有難うございます。

本日の会議の進行を行います総務課長の前田です。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、近藤市長にご挨拶をいただきます。

○近藤市長

ただ今より、平成29年度第1回安来市総合教育会議を開催させていただきます。教育委員の皆様方におかれましては、公私にわたり何かとお忙しい中、ご出席賜りまして

誠にありがとうございます。

平成29年度も、早いもので4ヶ月が経過しました。本日、この会議を開催しております新安来庁舎は、7月31日に開庁式を終え業務を開始しました。また、8月3日には総合文化ホールアルテピアの竣工式も終え、いよいよ9月9日にオープンいたします。

学校では1学期も終わり、子ども達は夏休み真っただ中であります。この期間に、地域行事等を通していろいろな体験をして欲しいと思います。

さて、「いじめ防止対策推進法」が公布されてから早4年が経過しますが、未だいたるところで発生している状況であります。いじめは、児童・生徒の心身の健全な発達に重大な影響を及ぼし、不登校や自死などにも繋っていく深刻な問題です。

この総合教育会議の場でも、これまでに議題として取り上げ皆様から意見をいただいておりますが、今後も子ども達を注意深く見守り続けるとともに、学校と家庭、そして地域が一体となって、いじめを未然に防ぐ取り組みが必要であります。

そして、子ども達が将来への夢や希望を持ち、一人一人が生きる力をしっかりと身につけることが出来る教育環境の整備に取り組むとともに、地域社会全体で子ども達を育てていく環境を構築しなければなりません。忌憚のないご意見をいただき、市の教育施策に反映してまいりたいと思います。

本日の総合教育会議では、先般、教育委員の皆様が学力向上について先進地視察をされたと伺っておりますので、その報告に併せて感想をいただきたいと思います。また、「子どもの志の育成」、「子どものネット」、「子どもの虐待」等について、意見交換をさせていただきたいと思います。

よろしくようお願い申し上げます、簡単ではございますが開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。

○前田総務課長

ありがとうございました。それでは、会議に入らせていただきたいと思いますが、本日の会議は終了を17時に予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。それでは、安来市総合教育会議設置要綱の規定により、市長に議長として会議の進行をお願いいたします。

○議長（市長）

それでは、お手元に配布してありますレジメに従って進めたいと思います。

まず、先進地視察の報告についてですが、先般学力向上を目的として福井県への視察が実施されたと伺っておりますので、その報告を担当からお願いします。

視察参加者

勝部教育長、少林教育委員、森井教育委員、加藤教育委員、三輪教育委員
難波学校教育課長、田中学校教育課指導主事、宇名手教育総務課係長

(資料に基づき説明)

○議長（市長）

報告が終わりました。意見交換を行いたいと思いますが、それぞれの委員さんからも視察の感想等お願いします。

○少林委員

福井県、福井市の取組みは、島根県と違うと感じました。県がICT機器を全校に取り入れて整備し、タブレットは市の予算で導入するなど公的支援がなされています。

また、福井県は義務教育採用で、小学校の先生の8割以上が中学校の先生も経験されておられるようであり、小・中の連携が取りやすいようです。先生方も他の授業を自然に見学されて放課後なども話し合いをするなど、改善に意欲的でした。

○加藤委員

子ども達に考えさせる授業であり、間の取り方が上手く流れの良い授業で、子ども達の集中力が続くと感じました。普通なら授業の途中に参観者が入れば注意力が散漫になりますが、まったくそんなことがなく普段の生活習慣から集中力が養われています。勉強やスポーツにも集中力を持って取り組んでいると思いました。教員同士のコミュニケーションも取れていて、余裕がないと出来ないことだと思います。

○森井委員

授業を見学させていただきましたが、集中力に圧倒されました。永平寺の影響かも知れませんが、無言で生徒は掃除をしていました。

また、ノーチャイムでありました。チャイムや人に教えられてではなく、自分で次の行動を考えて行うなど鍛えられていました。集中力、粘り強さによって、勉強も出来るようになるのではと思いました。先生方も熱心であり連携も良かったです。若い先生が他の先生の授業を自然に見学しておられ、研究熱心だと感じました。

○三輪委員

視聴覚資料で成果を上げていました。視聴覚教材を使うと、子ども達はそれに引きつけられて楽しい雰囲気の中で理解も早いように感じましたし、そういうことから資料の工夫研究がなされていると思いました。

英語の授業も見学しましたが、子ども達から会話を引き出しながら、分からないことは隣の生徒に聞いたり教えたりして、楽しい授業の雰囲気が伺われました。視覚で訴えると友達同士の繋がりが安定していて、授業を楽しんでいると改めて感じました。

また、2学期制を取り入れられており、9月までが1学期、10月から2学期が始まります。そのため、先生もゆとりの時間が生まれ、その期間に授業の研究や困ったことへの対策や、校内や地域での交流なども行われているのではないかと思います。学校を良くするために本気で話し合い、何かを作りあげようとする思いが羨ましいと感じました。

○教育長

研修は一人で行くことが多いですが、教育委員さんたちと揃って行くことによりコミュニケーションも取れ、大変良い視察だったと思います。

藤島中学校と西藤島小学校の2校に行きましたが、福井市自体が26万5千人の人口で、1時間半あれば大体どこの学校も集まれるとのことであり、そうした中で小・中の連携がしっかりしていると感じました。市内に福井大学、福井工業大学があるので、学力の意識も高いというイメージを持ちました。現在、中学生は高校に見学には行きますが、今後は小学生が高校まで、中学生が大学まで見学することは必要だと思います。

福井県は宿題が多いと聞いていましたが、学年で年間の宿題計画が作っており、これは凄いことです。宿題も学年の担任、教科の担任が出し、宿題をしてきたかというチェックもあるそうです。小学校の時から鍛えてあって、それが当たり前で中学校に来ている。凄い量の家庭学習を行っているのだと思います。

先生のシステムとして義務教育採用をしており、小学校の先生が中学校に行ったり、中学校の先生が小学校に行ったりして、お互いの学校間の指導が出来るというのは素晴らしいことです。そのためには、小・中の教員免許を持っている必要がありますが、教員間の連携が取れていました。

クラス人数も小人数制をとっており、31人学級でありました。そのため、細やかな指導もしやすいようにシステムが出来ているようです。

○議長（市長）

ご苦労様でした。義務教育採用にしても、教員免許をそれぞれ持つ必要がありますが、素晴らしい教育をされているようです。

2学期制についても、導入する、しないは別としてメリット、デメリットを安来市も検討していく必要があると思います。

県や市からの公的支援が、きちんとしているようです。我々も考えたいと思いますが、大いに反省しないといけないと思っています。生活習慣がきちんと出来ていないといけませんね。具体的な取組みが参考になりましたが、これを安来市でどう生かしていくかです。校長会等でも話し合いをしていただいて、参考に出来ることは是非参考にさせていただきたいと思います。教員の参考になることも沢山あったと思いますが、いかがですか。

○加藤委員

先生方も一生懸命取り組んでおられますけれど、時間が無いですね。何時までも電気がついてます。いろいろな打合せもされると思いますが、そうした中でも自分のクラスが大事ですから、準備や授業のこと、また保護者の対応などの時間に追われているのだと思います。

学習支援とかALTなど、単費で賄うしかないと思いますが、それを市長にお願いしたいです。

○市長

県に対して学習環境面等を要望し、実施していただいております。先生方も、参考に出来ることはして欲しいと思います。

○教育長

毎月校長会をしていますので、配布して検討できると思います。

○森井委員

先生も、子ども達のために一生懸命に仕事をしておられますが、そのため時間がなくなり勤務時間が増えています。先生同士のコミュニケーションを高めてレベルアップすれば、結果的に子ども達に返ります。そのために時間を上手に作ろうとしておられると思いますが、加配もしていただければと思います。

○市長

加配については知事等に要望していますが、市が単費で実施するかですね。

○少林委員

職員の意識の問題もありますが、意識を高く持たせたい時間効率よく使ってほしいと思います。人員の加配、施設の問題ばかりではなく、どうしたら意識を高めて効率よく充実した仕事をしていけるかに、改善の余地があると思います。今回の視察で、ヒントが沢山あると思います。再来年から始まる英語教育などの公的支援が必要なものについて、お願いしなければならないこともあります。今を見直すことによって、改善出来るものは取り入れていかなければならないと思います。

宿題をしないというのは、ゆとり教育の時に流行った自主学习で、子ども達の主体性を持たせて勉強はそうなくて良いというものであり、全体を見直していく余地があると思います。宿題というのは学年×10分とよく言いますが、「学年×10分プラス10分を目標に、どの先生にもお願いしています。」と、言っておられました。

○三輪委員

安来の子供達が、宿題をしないということに驚いています。宿題をしないということは、塾に行くのだろうか、ラインなどに没頭しているのだろうかかと勝手に想像していますが、何か大切なことを忘れていないのでしょうか。以前はこうでは無かったと思いますが、今は親が忙しくて面倒が見られないのかも知れません。

○加藤委員

宿題とは違いますが、先日研修会に参加させていただき、その際に東広島市の蔵田市長が挨拶され、「東広島を教育の町にしたい。」と言うビジョン、カラーが決まっております。「全て教育だ。人材を作ることが自分たちの使命だ。それがまちづくりだ。」と。「教育に熱い町こそが全ての源であり、それを発信することで子ども達は帰って来るんだ。」と仰っておられましたし、柳井市の教育長さんも「教育の町に。」と仰っておられました。

子ども達も学校を卒業して社会に貢献していかなければなりません、一貫して元気

がある町と言うのは大学があるんですね。この町で育ち大学に行って地元の企業で就職するという流れがあると、その町が非常に若くて、パワーがある町に見えます。

「この町をこうして行こう。」と、首長が自ら発信しておられるというのが印象的でした。安来は大学がありませんが日立金属という大企業がありますので、それに繋がるような大学があれば、必然的に教育熱心な町になっていくのではないかと思います。

○教育長

1人配置するためにはどうするか。超過勤務の問題もありますけれど、研修方法とか2学期制など再考してみる必要があります。

子ども達で言えば、家庭学習をもう少し出来るようにするなど行い、なぜ学力が高くなるのが良いことなのかを子ども達だけでなく保護者の皆さんにも理解していただかないといけません。

現職の頃に、地域によっては「勉強が出来て何か良いことがあるか。大学に出て帰ってこないではないか。」とか、「勉強が出来なくて良い、家に残ってくれば良い。」などという風土があり悩んだりもしましたが、そういう中で始まったのが今のキャリア教育です。「最終的に地元に戻って来て起業する。そこに無い職業、仕事場を作る。そういったことが出来る人材を輩出するためには学力が要る。だから、一生懸命頑張っていかなければならない。」といった指導も、子ども達のキャリア教育を進めるうえで大事であり、そういった事を子ども達に理解させながら関係指導者の向上、子ども達の家庭学習の量の増加に繋がり、それが意欲喚起に繋がると思います。行き着くところは学力向上であると思いますし、会議をしない日や部活をしない日などを提案して、学校現場と話し合っていかなければならないと思います。

○市長

先進地視察の報告はこのあたりで終了し、私の方から提案させていただきました議題について、委員さんと意見交換を行いたいと思います。

「子どもの志の育成について」です。何故勉強をしないといけないか、何事も無く暮らし、無難にしておけば良いという考えもありますが、経済が発達して生活が安定してくればこうなることもあります。戦後の貧しい時には少しでも良い生活をしたいと思いますが、今は価値観が違います。常に子どもは志を持って、向上心を持っていかないと成長をしないと思います。私も、「勉強すると大学に出て帰ってこないから、そこそこでいいよ。」とよく聞きました。それは一つの考えですが、市、教育委員会としては、向上心、郷土愛を育てなければなりません。スポーツでも何でも、今の自分より一歩上を目指す向上心が無いといけないと思います。

○難波学校教育課長

教員は小さく纏まるのではなく、持っている力を発揮して社会に貢献する人や志を持っている人、また世界に羽ばたく人材を育てたいと思っています。安来で育てて市外に出るとしても、安来の子は安来を大事に思って出ていく。そういう気持ちで教員はふる

さと教育を行っていると思っていますし、教育委員会もそう伝えています。

○教育長

グローバル人材の育成を育てるのが目標です。グローバルとローカルが一緒になった言葉です。

○少林委員

最近、20年30年後には今の仕事の7割か8割が無くなるなどと聞きます。今は、先が見えなくて前と同じ職業が残るわけではなく、子ども達の将来が不透明なところがあります。子ども達には更に上を目指して欲しいというのは変わりません。そういう意味で、学校の先生には広いアンテナを張っていただいて、そこに暮らせる子ども達を作ってもらいたいです。

○教育長

市長が言われる志を持つことは、大事なことであります。AIの出現で、人間がしていた仕事を人口頭脳が変わってやる時代が直ぐそこまで来ているようです。このAIが出現したことで、人でないと出来ない仕事がどんどん減っていきます。そのためにも、自分がやりたい事をしっかり持つ志が必要な時代が来ると思います。

○加藤委員

志というのは漠然としていて分かりにくいですが、目的、目標がないと志が持てないですね。志は子どもの自主性に任せるのかというと、それは違った話になります。

目標を持たせ、それに子ども達がマッチするか。安来市がこれから沢山の志や目標を持って取り組んでいける町かということ、一人の保護者としてはそうは思えません。子供たちに与える選択肢が少ないと思います。それがマッチング出来れば、子供たちも志を一つにして色々なことに取り組んでいくだろうし、それは親や教育者の責務であると思います。

志があるものが集まれば一つの町を作ってしまう、50年もあれば世界的な町にしてしまいます。安来市にも、目標になるカラーがあると良いと思います。その材料の一つとして日立金属がありますので、それに繋げる何かがあると良いと思います。

安来にしかないものを、市単費になるかもしれませんが充実させていただきたい。教育に投資して行くことは、大事だと思います。

○市長

困った人を助ける人間愛の志、経済的に成功したい志など志にもいろいろありますが、昔は貧困や環境が苦しいから、逆に助け合わないといけないなどの情操が育ちやすかったです。今、物は溢れており情操が育たないためか志が育ちません。育ちにくいです。今の社会を作ったのは我々ですが、世のため人のために社会の中で生きる人間としての志を育てないといけないかなと思います。

○少林委員

視察した藤島中学校の校長先生は女性だそうです。お会いできませんでしたが、その

先生がすごいリーダーシップで、藤島中ブランドという旗を掲げて「志ある子どもを育てよう。」とされており、今年の学年だよりの巻頭に「限界を超える」というタイトルで書いていらっしゃいました。「とにかく自分の限界を超える。まだまだ自分の未知に向かって挑戦しなさい」と。藤島中学校は5年前までは非常に荒れていたようで、休憩時間には廊下などに立っておられる教員がおられたそうです。

ところが、今は子ども達が変わって、集中力がありコミュニケーションも活発な学校になっています。子どもたちが更に意識を持って伸びようとしている姿を見ましたけれど、そのリーダーが校長先生だったそうです。二十数年前に藤島中で教員を勤めていて、その時は何が学校のカラーかも何も分からない状態だったそうですけれど、最後に校長で赴任し、藤島中ブランドを作って終わられる。

やはり、志の育成ということであると、問われて考えるのではなく自然と志を考え、それが自分の中から湧き出てくるような環境を作ってやるのが大事なかなと思います。

○市長

活発な意見もいただきましたが、時間も過ぎましたので今後も検討していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。その他、事務局の方で何かありますか。

○前田総務課長

今日は、皆様の教育に対する熱意が伝わるような会議だったと思います。次回の総合教育会議は11月に予定しております。よろしくお願いいたします。

本日はご苦勞様でした。